

新型コロナウイルスの感染者急増！ 第3波到来か

新型コロナウイルスの感染者が急激に増え続け、11月21日からの3連休明けの25日には感染者が1945人となりました。既に3連休前には1日あたりの国内での感染者が2000人を超す日が続き、政府の感染症対策分科会は、25日の会合で全国的な感染拡大を防ぐため、感染急増地と、それ以外の地域の往来自粛を求める提言をしました。既に政府は21日、新型コロナウイルス感染症対策本部を官邸で開催し、菅首相は感染拡大地域に対してGo To トラベルの運用の見直しや、Go To イートの食事券の新規発行停止などの検討を、都道府県に要請しました。これを受け札幌市、大阪市がGo To トラベルの一時停止を決めました。さらに、西村経済再生担当相は、25日に記者会見で、今後3週間で感染増加が抑えられなければ「緊急事態宣言が視野に入ってくる」と危機感を示しめしています。12月になると本格的な冬の到来となります。急激に新型コロナウイルス感染者が増えている北海道の要因はGo To トラベルによる観光客の増加と、早くに冬が到来しているからといわれています。

北海道内の小中学校、高校には、文部科学省や道内教育委員会より換気に関する通知が発出されています。それによると「換気はこまめに行うこと(30分に1回以上、数分間程度、2方向の窓を開けるなど)」と記されています。北海道では冬にマイナスの気温になることは日常ですが、それでも適切に換気を行う必要があるとしています。病院、介護施設、学校、療などでクラスターが発生したケースでは、やはり換気が原因の一つにあげられています。換気することによってウイルス等を外に出すことができるのです。ただ、換気をすることによって寒すぎて風邪をひいたり、体調を崩したりしては意味がありません。そこで本校では独立行政法人 北海道立総合研究機構が北海道教育庁学校教育局宛てに発出した「北海道の冬季の寒さに配慮した学校の換気方法」の提案について」を参考にして校内の換気を施すように努めます。

- ・廊下を利用して2段階換気の方式をとる(廊下に外気を入れ、教室の窓から外気を逃がす)
- ・窓を常時少しだけあけて換気をする
- ・湿度を下げないように注意する
- ・教室内の換気扇や欄間を利用する
- ・教室内でコート、マフラー、簡易カイロ等で暖をとる

12月に入るとクリスマスに冬休み、1月には正月と外出する機会が増えると思いますが、新型コロナウイルス感染状況から不要不急の外出は控えましょう。特に、冬休み期間を利用して旅行したり、親の故郷や親戚の家に行ったりすることもあると思います

が、発熱、倦怠感、喉の不調、味覚・嗅覚の異常、腹痛など体調がすぐれないときは外出を避けてください。3連休に感染者が増加している地域にGo To トラベルを利用して旅行する人が「怖いけどキャンセル料を取られてしまうから旅行に行く」というインタビューに答えていました。とにかく無理をせず、体調等を鑑み、適切な判断をして行動してください。

新型コロナウイルスの感染者が全国的に増え、神奈川県内も毎日3桁の感染者が確認されています。県内の学校では感染者が確認されたり、濃厚接触者と認定されたりする児童・生徒が増えてきています。一部の学校では集団感染の事例も見受けられます。こうした状況を踏まえ、本校では様々な感染症対策を講じてきています。そのため再度、健康観察の徹底やマスクの着用をはじめとする対策のほか、家庭内の感染症対策にもご協力いただきますようお願いいたします。3年次生は大学受験を控え、2年次生は修学旅行を控えています。教職員、生徒、保護者等に感染者がでたり、濃厚接触者と認定されたりすると、進路や学校行事に大きな影響がでる可能性があります。特に、修学旅行につきましては修学旅行を中止した場合、キャンセル料等が発生し、保護者の皆さんにご負担いただかなくてはならない場合もあります。そこで保護者の皆さんに次のことをお願いいたします。

- ・お子様だけでなく同居のご家族も体温測定を含め健康観察に協力してください
- ・同居している家族に風邪、倦怠感、喉の不調、味覚・嗅覚の異常、腹痛などの症状がある場合、生徒を休ませてください⇒家族の症状が消失するまで自宅で待機してください
- ・同居している家族に感染者が確認されたり、濃厚接触者と認定された場合、必ず学校に連絡ください⇒生徒本人の陰性が確認されたり、濃厚接触者と認定されなかったりするまで自宅で待機してください
- ・ご家族で3密が心配される場所への外出を避けるようにしてください
- ・帰宅時には手洗い、うがいを行ってください
- ・免疫力を高めるために「十分な睡眠」「バランスのとれた食事」「適度な運動」に心がけてください

マスクを着用していると新型コロナウイルスに感染しても重症化しないという仮説が注目されています。これは世界的に権威のある医学誌『ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディシン』に「新型コロナに対するマスク着用- ワクチンを待つまでの「種痘」の可能性)」という論説が載りました。直接曝露させた量と新型コロナウイルス量との関係ではなく、3密環境のなかでの実験です。マスクをしたマウスの方が、マスクをしないマウスより重症化しなかったそうです。これはマスクを着用することで新型コロナウイルスの曝露にさらされる量が少なくなり、その結果、重症化しにくいという仮説です。現に、医療従事者で感染した方の重症化する割合が低いのは、マスクを着用しているからと言われています。そういう点で、生徒・保護者、教職員の皆さん、マスク着用に心がけてください。昼食時や下校時にもマスク着用を喚起する放送を毎日流しています。昼食時や下校時にマスクを外して会話しないでください。